

令和3年2月1日

令和2年度学校関係者評価委員会

大阪市立デザイン教育研究所

開催日時

令和3年2月1日（研究所展覧会期間）

学校関係者評価委員

大阪商工会議所 西支部事務局長

大阪市立第二工芸高等学校 校長

大阪市立デザイン教育研究所 後援会

大阪市立デザイン教育研究所 所長

大阪市立デザイン教育研究所 専任講師〔司会〕

学校関係者評価委員会 次第

1 展覧会視察

13:10～13:20

大阪商工会議所西支部と取り組む「駅前ぶらりある区」プロジェクトの展示を視察。

13:20～13:30

課題研究の展示を視察

13:30～13:40

春期セミナーを視察

13:40～13:50（所長室へ移動）

2 今年度の報告

13:50～14:10

教育の全体像を別紙（時間割）より説明

カリキュラム構成は本校の特色であるプロジェクト（プロジェクトベース・チームベースで社会の要求に対応し、デザインで問題解決する）を中心に組み立てる。ベースになる力の養成に注意を払い、その上にチームで取り組める力をつける。

新たな試み

新型コロナ感染防止対策【1階とオンライン展示】

評判のプロジェクト

大阪大学グローバルビレッジつくも台

- ・ パナソニックホームズ
- ・ 中銀インテグレーション
- ・ 共和メディカル

今里・神路（大阪商工会議所東支部様のプロジェクト）【2階に展示】

入学前教育の重点を説明

- ・ 工芸高校での出前授業実施

今年度の重点を説明

- ・ デ研展におけるオンラインの活用
- ・ 世代交代

3 委員からのご意見

14:10～14:40

企業との連携プロジェクトについて

高校との連携プロジェクト（高校との接続性）について

その他のご意見

令和2年度学校関係者評価委員会 議事録

※冬のデ研展 2021 視察後の委員会につき、展示内容に関する意見も含まれる。

A委員

- 民間企業の近況★：新型コロナウイルスの対応で苦慮している事業所と売り上げを伸ばしている事業所に2分化している。それにつけてデ研での対応には工夫が見られる。
- ★‘映像分野’は業種を問わず注目されていて、映像制作会社に受注が殺到している。
- ★映像編集アプリが進化してきているので、自分たちの力で編集できるようにしたい。
- ★町工場などでも技術（匠の技）の世代間の伝承が大きな課題となっている。今後、映像を技術（匠の技）伝承のツールの一つとして期待している。
- ★顧客のオーダーに対していかに迅速に対応できるかというスピード感が求められている。特に競合他社に勝つためには必須である。
- 冬のデ研展の展示を見て▲：和歌山のプロジェクトが職人の伝統技術伝承から始まり、さまざまな視点で広がりを持っていることがとても良い。同様の手法で大阪でもプロジェクトを広げていくことを期待している。
- ▲校内食堂で飛沫感染防護壁を迅速に対応したことは良い。

B委員

- ▲新型コロナウイルスの影響で自動車会社から実技の講師を派遣してもらえないことを憂慮する。自動車、バイク離れが懸念されるなか、今後の影響が心配である。
- ▲‘実技’によるモデリングの授業は今後も重視していくべきである。
- ▲商品やパッケージづくりで柔軟な発想を持つ学生が多いことを再認識させられた。学生のアイデアを実際にプロダクト化、製品化されるとより学生のモチベーションアップにつながるだろう。
- ▲東成区や生野区等、地元の話題に取り組んでいることは良い。阿倍野区の話題もさらに充実させるとなお良い。

C委員

- 府への移管問題がデ研の存続や教育活動にどう影響しているのか。
- 定員割れが続かないよう、今以上に高校に向けて広報活動を強化すると良い。
- ▲カリキュラムや授業が多岐、多方面にわたり、外部からみると複雑で理解しづらい。あれこれ手を広げるより、もう少し単線化するべきでは。
- ▲学生の提案をプロの助言で世に出すと、学生の自信につながる。
- ▲和歌山や大阪大学が大きくみえる。地元（例えば大阪市内）のプロジェクトをさらに強化すると良い。

共通意見

- 工芸高校とデ研の5年継続教育に関する包括連携協定を急ぐべきである。